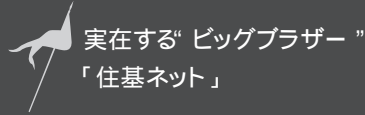


インターネットをわれらに

第2回 “ビッグブラザー”の監視を許すな

個人のプライバシーが狙われる時代だ。あの手この手で利用者の個人情報を集めるサイトや「住基ネット」、無制限に流通する「プライバシー」。情報化による利便性の裏には、自分の私生活が丸裸にされる危険性が潜んでいる。

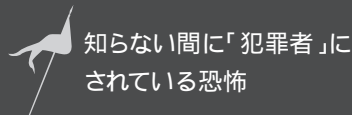


実在する“ビッグブラザー”
「住基ネット」

去る6月末、東京にて、プライバシー関連NGOが主催する「ビッグブラザー・ジャパン 2003」(以下、BBJ)というイベント²が開かれた。

これはプライバシーの重要性を訴えるイベントで、プライバシーの侵害に最も貢献(?)した人物などを表彰して笑い飛ばそうという企画。授賞式では、冒頭から英国のプライバシー関連のNGO「プライバシー・インターナショナル」のサイモン・デービス氏扮するエリザベス女王の登場を皮切りに、徹頭徹尾ギャグとユーモアで笑い飛ばす抱腹絶倒のイベントだった。

さて荣誉ある日本のビッグブラザー大賞第一号には、この8月から本格稼働を始める住基ネット³が選ばれた。授賞の理由は、世界に誇る日本の最先端IT技術を使って市民を管理・監視する「住民基本台帳ネットワーク」という巨大な国民監視のための最も基本的なシステムという点だった。



知らない間に「犯罪者」に
されている恐怖

しかし笑ってばかりもいられない。イ



「ビッグブラザー・ジャパン 2003」トロフィーは携帯電話のポディー付き(以下すべて、撮影著者)



はるばる大英帝国からイベントに登場した「エリザベス女王」!



Big Brother Awards Internationalのページ
URL <http://www.bigbrotherawards.org/>

メントの前日に開かれた国際シンポジウムでのアメリカとイギリスの参加者からの報告は、それぞれ“ビッグブラザー”の時代を感じさせるものだった。

ここではさまざまな事例が紹介されたのだが、たとえば対テロ戦争に備えるという名目で立法されたアメリカの「愛国法」⁴や、社会を犯罪から守るといふ名目のイギリスのネットワーク規制は、ひとこと言ってすべての市民を潜在的犯罪者とみなすものだ。

ぼくはある発表者⁴にこう尋ねた。「市民の中には、自分は悪いことはしていないからインターネットの通信を覗かれても困らない、犯罪者を監視することはいいことだと考える人は少なくないが」。

それに対する答えはこうだった。「英米の政府は、イラク戦争に反対する人物を潜在的なテロリストだとみなしている。あなたが友達に『アメリカとイギリスが国連を無視してイラクを攻撃したのは間違いだと思ふ』とメールを送れば、そのメールは英米の当局によってバックボーンに仕掛けられた装置⁵で傍受され、あなたの名前はデータベースに『潜在的テロリスト』というラベルとともに記録されるだろう。そうすれば、あなたがアメリカに入国しようとしたとき、入国審査で不愉快な思いをするかもしれない。いやな思いをしたくないと考える人は、いっ





プライバシー・インターナショナルのサイモン・デービス氏



米国自由人権協会のクリス・チュウ氏

そ当局の気に障るようなことは言わないほうがいいと考えるようになるかもしれない。それこそ、「ビッグブラザー」が望んでいることだ。

「サイバー犯罪条約」が国会を通ったら

日本の発表者は、住基ネットの問題を指摘した。総務省は、住基ネットは住所や氏名など、6つの情報*6を提供するだけでセキュリティ対策も万全だから、プライバシー侵害の問題はないと主張する。だが、少しでもデータベースをかじったことがある人なら、これらの情報の「マスターキー」としての利用価値にこそ、本質的な意味があることを知っているはずだ*7。

さまざまな行政機関、政府機関の事務効率は飛躍的に高まる。現在のところ、世論を考慮して警察や税務のような敏感な業務には使われないのだが、そのうち世間が静かになれば、当然、警察や税務署、その他のあらゆる政府機関で住基ネットは使われるだろう。住基ネットの本当の出番はそれからだ。

現在、批准と国内法の整備が進められている「サイバー犯罪条約」*8というインターネット監視と統制のための条約がある。監視の対象となる一般のインター

ネットユーザーはもちろん、ユーザーを潜在的犯罪者として監視する義務を負わされるプロバイダーにとっても、悪夢のような法制だ。これを使って収集したデータを住民コードで名寄せすれば、あらゆるインターネットの通信を丸裸にできるだろう。

生活の隅々に入り込んだインターネットでの活動が、すべて誰かに監視されるなんて、考えただけでも憂鬱だ。

シンポジウムの後、アメリカの発表者がこう言っていた。「プライバシーは新鮮な空気のようなものだ。人々はそれが失われたときに、いかにかけがえのないものだったのかに気付くのだ」と。

今月は予定を変更して「プライバシー」をテーマにお送りしました。次号、第3回「インターネット規制」に続く



明治大学夏井高人教授による欧州評議会「サイバー犯罪条約案」の仮訳

URL http://www.isc.meiji.ac.jp/~sumwel_h/doc/intnl/cybercrime-conv-final.htm

著者プロフィール

安田幸弘(やすだゆきひろ)

本業はテクニカルライター。また、非営利活動の分野でのインターネット利用を支援するために、NGO/NPOへのボランティア・コンサルタントとしても活動中。パソコン通信、インターネット、Windows、Linux、MacOSなどに関する著書多数。Linux雑誌「Linux Magazine」、「Linux World」などに連載記事。

著書「Zopeガイド(毎日コミュニケーションズ)」「Apacheアプリケーションサイト構築(オーム社)」「市民インターネット入門(岩波ブックレットNo.433)ほか多数。

筆者の近況

今月のマイブームは「辛ラーメン」という韓国製激辛インスタントラーメンである。インスタントだとバカにしてはいけなない。キムチ、野菜屑、ソーセージの切れっ端、その他何でも冷蔵庫の残り物を一切切ぶち込んで卵を落とし、鍋でゲツツと5分ほど煮込む。具の選び方次第で、本場の「ブデチゲ」という料理に負けぬ味になるはずだ。

今月取り上げたNPO / NGO

プライバシー・インターナショナル

URL <http://www.privacyinternational.org/>
1990年、ロンドンを本拠地として発足。現在は北アメリカ、アジアなどでプライバシー擁護の活動を行っている。

参加方法: 特になし
連絡先: Privacy International London Headquarters
2nd Floor, Lancaster House,
33 Islington High Street,
London N1 9LH, UK
TEL:07947-778247(イギリス国内)
TEL:+44-7947-778247(イギリス以外)

ビッグブラザー・ジャパン実行委員会

URL <http://www.bigbrotherjapan.info/>
2003年、ビッグブラザー・ジャパン開催のために日本消費者連盟、反監視ネットワーク、プライバシーアクションなどの参加で結成。ノミネートされた個人/組織へのネット投票が可能。

参加方法: メールによる連絡など
連絡先: 〒162-0042 東京都新宿区早稲田町75日本消費者連盟内
ビッグブラザー・ジャパン実行委員会
e-mail: info@bigbrotherjapan.info

(脚注)

*1)「ビッグブラザー」とは、ジョージ・オーウェルの小説「1984年」に登場する万能の市民監視システムのこと。至るところで私生活が監視される恐ろしさを描いたこの小説の内容は、最新のIT技術で世界的な規模で現実のものになりつつある。



ジョージ・オーウェル「1984年」(ハヤカワ文庫 NV 8)

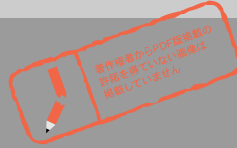
*2) ビッグ・ブラザー・ジャパン 2003実行委員会主催。
*3) 片山総務大臣は、残念ながら会場には姿を見せなかった。案外、謙虚な人物なのかもしれない。なお、BBJの各部門の受賞者は以下のとおり。
大賞:住基ネット
準大賞:歌舞伎町監視カメラ
話題賞:SARSウイルス
特別海外賞:ジョージ・ブッシュ米国大統領
およびコリン・パウエル米国防務長官
栄誉賞:武富士
努力賞:防衛庁

*4) アメリカ自由人権協会(ACLU)のクリス・チュウ氏。
*5) 英米は「エシユロン」と呼ばれる地球規模の通信傍受システムを運用している。またイギリスでは、市民の通話記録や、電子メール記録、訪れたウェブサイトなどの情報を政府が自由に利用できるようにする法案が検討されている。また、9.11テロの後、アメリカをはじめとする各国の政府が「テロとの戦争」を口実として、ネットの盗聴や監視の法制化を進めている。

*6) 住所、氏名、性別、生年月日、コード、付随情報の6つ。
*7) 基本6情報は公開情報とされているが、ペンネームで仕事をしている人、性転換した人、年齢の詐偽を読んでいる人などにとっては、それだけでも他人に知られたくないプライバシーだ。しかし、これが名寄せのキーに使われれば、決定的なプライバシー情報になる。

参考文献

白石孝 / 小倉利丸 / 板垣竜太編
「世界のプライバシー権運動と監視社会」(明石書店)
実行委員会のメンバーによってまとめられた本。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp